

講義名	消費者問題論		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	森脇 丈子		
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 4時限	授業形態	
履修開始年次	2年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

私たちはさまざまな商品やサービスに囲まれて生活しています。健康志向の高まりや高齢化に対応した商品やサービス、子どもたちが興味を持ちそうなカラフルで刺激的な商品などたくさんあります。これらの商品のなかには、輸入品も多数含まれています。個人がインターネットを経由して、直接海外から商品を取り寄せ購入することも可能となり、消費者にとっては便利さが増えています。しかしながら、国内の生産者やメーカーとの取引の範囲を超えて、消費者がトラブルに巻き込まれるといった状況も拡大してきています。また、悪徳商法による被害は残念ながら減少していません。

この講義では、商品・サービスの売り方(企業側の視点)ならびに消費者の購買行動・引っかけやすさについて、事例等を使いながら学んでいきます。また、消費者に関連する法律にも触れながら、より安全な消費生活を実践するために何が必要か、どういった行動を身に付けるべきかについて考えていきます。また、毎回の講義の中で、受講生との議論をおこないます。

到達目標

1. 売れ行きよい商品の秘密を知り、それが消費者にどのように受け入れられているかを学びます。
2. 消費者がつい陥ってしまう「買いたくなる」「断れない」状況について学びます。
3. 悪質商法の事例や対処方法などについての知識を増やします。
4. 消費者保護に関連する法律の特徴について学びます。
5. 消費者の立場から消費や生活のあり方の改善点について、自分で考えるという習慣を身に付けることで避けることのできる消費行動の失敗について、学んでいきます。

提出課題

2回の課題提出を予定しています。1回あたりの評価点は25点満点、課題の合計50点満点です。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック

「課題」提出の翌週の授業で、いくつかの回答をとりあげ、それらに対するコメントをします。

評価の基準

課題(50%)、定期試験(50%)による総合評価を行います。
2回分の課題の50点満点と、試験の50点満点を合わせて、合計60点以上を合格とします。

履修にあたっての注意・助言他

新聞・ニュース・雑誌等で社会の出来事や消費者に関連する問題などについて、情報を日々収集しておいてください。

第1回目の授業ガイダンスに必ず出席し、評価方法をしっかりと理解したうえで、受講してください。

授業では、かならずメモをとってください。

関連科目として、次の講義の受講を勧めます。
「消費文化論」、「生活構造論」、「経済学入門」、「アミューズメント事業論」、「NPO論」

教科書
・「使用しない」。

プリント資料及び参考文献

「講義連絡」に授業プリントを添付します。印刷できる人は印刷して授業に参加してください。授業ではメモをとってください。印刷できない人は、ノートを準備して、かならずメモをとってください。

- ・安部司(2014)『食品の裏側2 実態編』、東洋経済新報社、1,400円+税。
- ・川上徹也(2015)『1行バカ売れ』、KADOKAWA、800円+税。
- ・岩村暢子(2013)『日本人には二種類いる 1960年の断崖』、新潮社、720円+税。

授業計画

1. 市場に出回る商品・サービス(1) - 売れない時代の企業の工夫
2. 市場に出回る商品・サービス(2) - 購入をいかに促すか
3. 市場に出回る商品・サービス(3) - 消費者へのインパクト
4. 市場に出回る商品・サービス(4) - 欲望の刺激
5. 悪徳商法の事例と対策(1) - 高齢者を狙った詐欺
6. 悪徳商法の事例と対策(2) - 若者や主婦を狙った詐欺
7. 食の安全性(1) - 食品偽装のあれこれ
8. 食の安全性(2) - 食品偽装はなぜ起こるか
9. 商品事故 - 一般商品、子供向け商品
10. 消費生活相談の概況と課題
11. 消費者運動の歴史と課題
12. 消費者問題と現代の企業システム
13. 「ニセ科学」について考える(1)
14. 「ニセ科学」について考える(2)
15. まとめと試験

授業形態(アクティブ・ラーニング)

<input type="checkbox"/> A: PBL(課題解決型学習)
<input type="checkbox"/> I: 反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
<input type="checkbox"/> U: ディスカッション、ディベート
<input type="checkbox"/> E: グループワーク
<input type="checkbox"/> O: プレゼンテーション
<input type="checkbox"/> C: 実習、フィールドワーク

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

「講義連絡」に掲載された予習を、授業開始時までに済ませておいてください(作業時間: 2時間程度)。

その日の授業で扱った内容は、次の授業の理解の基礎になります。また、課題で合格点をとるために必要な知識となります。授業で使用したプリントを用いて、基礎的な内容の復習をしてください。また、配布した新聞記事などを利用して、具体的事例で授業内容をより深く理解できるように努め、ノートに要点などをまとめておいてください。(作業時間: 2時間程度)。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

LIVEでのオンライン授業になった場合には、授業中に質問を出し、受講生にチャットで意見を述べてもらいます。

実務経験の有無及び活用

備考

第1回目の授業に必ず出席してください。
授業ではメモをとって、理解を深めてください。